

に困る國民、親兄弟にも生き別れて工場に稼いで見ても過勞や營養不良から肺病若くば生れもつかぬ片輪になるより得のない國民、頭禿げても腰辨當で青二才の上官の前に米つきバツタで一生を終る國民、物持の低脳小僧の御氣嫌を取つて教鞭をとらして頂く國民、働き人に死なれば血の涙で子供と別るゝか賣淫をしなければならぬ國民、戦争の時は國家の干城とおだてられ名譽の負傷をしたら藥賣りの乞食をしてあるかねばならぬ國民、娼や子供に内職までさしても碌々切身一片にもありつけないで雨風の夜中でも金持の番犬を勤めて御役目大事に考へても見ぬ國民——要するに國民の絶對多數たる

る是等智識的肉體的勞働者をゴマ化すに、最も都合の好い御題目が、鬼共の唱へてゐる國家主義なのだ。奴等は日本國を組織してゐる絶對多數の國民を、如何に馬鹿らしく、如何に覺醒奮起せしめず、如何に己等の便利調法に、コキ使ふかを考へて國家主義で被せる。

元來日本人は、國家と云へば盲目だと、高をくゝつての仕事だ。念佛の聲が似たとて、鬼の正體が何時まで現はれずに済むか。俺等の純正國家主義に對して、奴等のは贗造國家主義だ。贗造貨幣は上皮に金銀を冠せて詐欺に使ふものだ。已等の我利我慾が、如何に日本國を慘害し、如何に七千萬同胞